

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

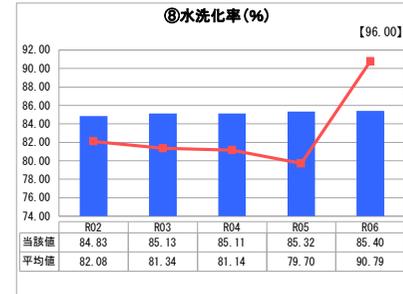
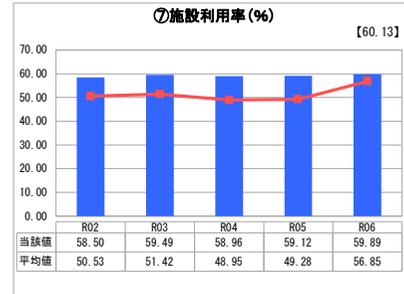
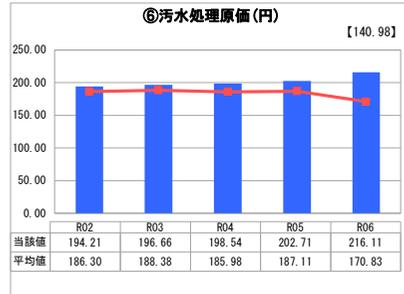
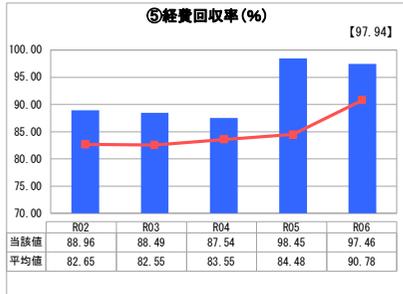
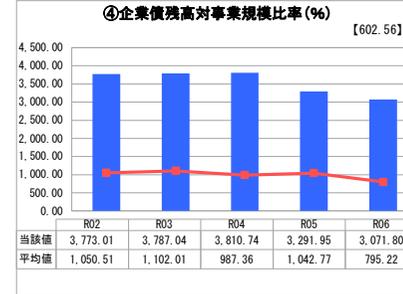
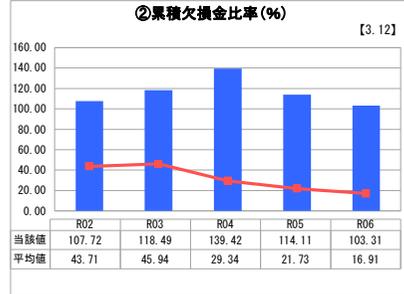
京都府 綾部市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	37.57	53.50	94.23	3,300

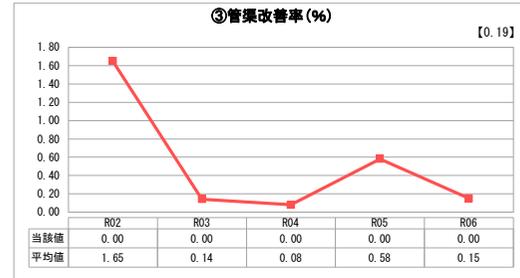
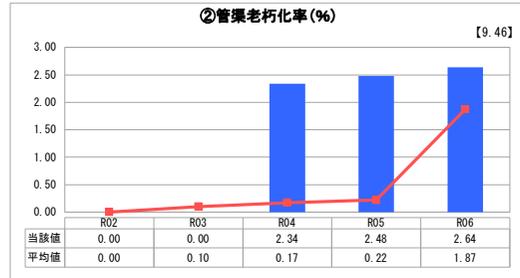
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
31,072	347.10	89.52
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
16,504	4.79	3,445.51

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①令和3、4年度は経常収支比率が100%を下回りましたが、令和5年4月に使用料改定を行った影響により、令和5、6年度は100%を上回りました。  
 ②使用料改定の影響により累積欠損比率は減少傾向ですが、平均よりも高い状態が続いています。  
 ③流動比率は前年度より減少し、類似団体の平均を下回っており、今後、流動資産の増加を図りつつ流動負債を減少させる経営の方法を考える必要があります。  
 ④企業債残高対事業規模比率は、使用料改定を行った影響により減少しましたが、類似団体の平均を上回っています。今後も投資規模及び企業債のあり方を検討していく必要があります。  
 ⑤経費回収率は、類似団体の平均を上回っていますが、100%の水準までには達していません。使用料改定を行いました。引き続き収益の確保及び維持管理費の削減を行います。  
 ⑥汚水処理原価についても類似団体と比較して高い状況にあります。投資の適宜化、維持管理費の削減の取組が重要であると考えます。  
 ⑦施設利用率は整備途中のため、今後、数値が上昇していく見込みです。また、地域の特性上、お盆又は年末年始などは一時的に増大する時期があるため、一定の余裕が必要と考えます。  
 ⑧水洗化率については100%にはなっていません。類似団体区分が変わったため、前年度からの比較はできませんが、類似団体の平均より低く、今後も拡大した地域への水洗化促進が重要と考えます。

### 2. 老朽化の状況について

管渠は比較的新しい状況です。  
 ①有形固定資産減価償却率は、類似団体と比較して低い水準ですが、平成31年4月1日に法適化した影響があり、単純比較が難しい状況です。  
 ②管渠は比較的新しい状況ですが、雨水の管渠で令和4年度から法定耐用年数を経過したものが有ります。日々の点検・維持管理から異常等は確認されていませんが、必要に応じて補修・改修を検討します。  
 ③管渠改善率は類似団体の平均を下回っており、カメラ調査においても異常は確認されておらず、管渠の改築更新は実施していません。機器等について、老朽化が進行する中で、長寿命化対策等を検討・実施していく時期を迎えています。

### 全体総括

本市の公共下水道事業の経営は厳しい状態であると認識しています。特に、汚水処理原価が類似団体の平均値を上回る数値になっており、今後汚水処理原価を減少させるために、徹底した投資の適正化や維持管理費の削減が最重要課題であると認識しています。使用料改定の影響により経常収支比率及び経費回収率は改善しました。しかし、依然本市の経常収支比率は累積欠損比率が高く、人口減少による使用料収入の減少や人件費・物価高騰により、さらに累積欠損比率が高くなるのが予測されます。引き続き、適正な使用料のあり方を定期的に検討し、使用料収益の確保を目指すとともに、維持管理費の削減、適切な投資・改修計画を行い、経営の安定化を図りたいと考えます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。